

# 西野博之さん講演会 映画上映会「ゆめパのじかん」

2026  
**2.15日** **子どもが育つ  
居場所のちから**

映画上映会：10:00～12:15（受付 9:30）

講演会：13:00～15:30（受付 12:30）

会場：岡崎市総合学習センター 小ホール

参加費

上映会：500円

講演会：500円

終日：800円

（事前決済）

西野博之さんをお招きし、子どもたちが安心して過ごせる居場所や多様な学びについて考えていく講演会を開催いたします。  
近年、学校に行きづらい子、不登校の子が増えている現状があります。どう生きたいのかに迷いながら揺れ動く子どもの「いのち」に寄り添い、ありのままを受け止めることの大切さをぜひ一緒に考えていきましょう。

## 映画「ゆめパのじかん」

監督：重江良樹

「ゆめパ」はみんなの遊び場。

ゆめパの一角にある「フリースペースえん」は安心して、ありのままの自分で過ごせる場所。

でも時には学校や勉強のことが気になる子も...新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め\_\_。子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」を描き出したドキュメンタリー。

**11:30～12:15**

**ワークショップ**

映画をみた感想などを  
西野さん、ファシリテーターと  
みなさんと共有しましょう



## 講演会

講師：西野博之

認定NPO法人フリースペースたまりば理事長。川崎市こども夢パーク・フリースペースえん他、各事業総合アドバイザー。1986年から若者の居場所づくりにかわり、1991年に川崎市高津区に

「フリースペースたまりば」を開設。2003年に川崎市子ども夢パーク内に、川崎市の委託により公設民営の不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」を開設、その代表を務める。

神奈川大学非常勤講師 精神保健福祉士 著書「マンガでわかる！学校に行かない子どもが見ている世界」

(KADOKAWA)

等多数。



お問い合わせ先：児童発達支援センターきらら

(0564) 74-8686

後援 岡崎市教育委員会

協賛 医療法人仁精会三河病院

お申込はQRコードから→  
一人ずつお申込み下さい





やってみたい」が  
いっぱいある。

重江良樹 監督作品

(『さとにきたらええやん』)

# ゆめパ のじかん



yumepa-no-jikan.com

神奈川県川崎市にある子どもたちの居場所「川崎市子ども夢パーク」＝通称「ゆめパ」。  
遊んで、転んで、立ち止まって……誰もが安心して自分らしく過ごせる居場所で育まれる、  
子どもたちのかけがえのない“じかん”を情感豊かに描いた珠玉のドキュメンタリー。

監督・撮影：重江良樹 構成・プロデューサー：大澤一生 編集：辻井 潔 音楽：見玉 奈央 制作協力：認定NPO法人フリースペースたまりば  
撮影協力：川崎市、川崎市子ども夢パーク、公益財団法人 川崎市生涯学習財団、夢パーク支援委員会、ちいぐれん(地域で子育てを考えよう連絡会)、風基建設株式会社  
製作：ガーラフィルム、ノンデライコ 宣伝：ウッキー・プロダクション、リガード 配給：ノンデライコ 2022/日本/90分/日本語/カラー/ドキュメンタリー  
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)| 独立行政法人日本芸術文化振興会 推薦：厚生労働省社会保障審議会



# 何をしてもいい。何もしなくてもいい。 きみは、きみのままでいい。

## いまを生きるすべての子どもと、かつて子どもだった大人に贈る、 生きる力を育む“じかん”

「ゆめパ」は子どもたちみんなの遊び場。約1万㎡の広大な敷地には、子どもたちの「やってみたい」がたくさん詰まっています。手作りの遊具で思いっきり遊ぶ子どもたち。一緒にどろんこになっている親子。小さな子どもを連れた自主保育のグループ。ゆめパにはいつも子どもと子どもに関わる大人が集っています。

ゆめパの一角には「フリースペースえん」があり、学校に行っていない子どもたちが自分の「好き」をあたためています。安心して、ありのままの自分で過ごせる場所で、虫や鳥を観察したり、木工細工に熱中したり、ゴロゴロ休息したり。でも、時には学校や勉強のことが気になる子も…。新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め――。

家庭でもない、学校でもない、第3の子どもの居場所を公設民営で運営している先進的なモデルとして、全国の自治体から注目を集めるゆめパの日々を3年にわたり撮影したのは、『さとにきたらええやん』の重江良樹監督。遊ぶこと、学ぶこと、休息すること、人と共にあること。その輝きも揺らぎも、子どもたちのかけがえのない“じかん”はきっと大人たちにも大切なものを思い起こさせてくれることでしょう。

子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」を描き出したドキュメンタリー。



子どもは“好き”を見つけ、“自分らしさ”を表現する  
才能があると改めて感じました。

『ゆめパのじかん』では、その才能を最大限に発揮し、大人にはない行動力を爆発させている、子どもたちの輝く瞬間をリアルに映し出しています。周りと同じである必要なんてなく、自分らしさを持つことが大切だということを子どもたちが教えてくれました。年齢問わず、多くの方にこの作品を観ていただきたいです。

――中川翔子(歌手/タレント)

「子どもは自分で考えて決断することができない庇護すべきか弱いイキモノである。だから、我々オトナは彼らを守り、教え、“正しい道”に導かなければならない」。『ゆめパのじかん』を観た後はそんな思い込みがきっと一掃されてしまうだろう。

無気力で勉強嫌いと思われがちな  
不登校児のイメージも変わるかもしれない。

――深爪(エッセイスト)

未来はひとりひとりの  
手作りの希望からしか生まれない。

――谷川俊太郎(詩人)



「川崎市子ども夢パーク」とは  
神奈川県川崎市高津区にある子どものための遊び場。2000年に制定された「川崎市子どもの権利に関する条例」をもとに市民参画で作られた。工場跡地を利用した約1万㎡の広大な敷地にはプレーパークエリア、音楽スタジオや創作スペース、ゴロゴロ過ごせる部屋のほか、学校に行っていない子どものための「フリースペースえん」が開設されている。乳幼児から高校生くらいまで、幅広い年齢の子どもが利用している。

yumepark.net

日時：2026年2月15日(日) 10:00～11:30(受付 9:30)

場所：岡崎市総合学習センター 入場料金：500円

主催：NPO 法人 子どもの発達を支援する会きらら

★参加申し込みは右のQRコードからお願いします★

